



2025年10月期 決算説明資料

のむら産業株式会社 証券コード 7131

皆さま、こんにちは、清川でございます。
本日は、年末のお忙しい中にもかかわらず、当社の決算説明会にご参加いただき、感謝
申し上げます。

これより、のむら産業株式会社2025年10月期の決算についてご説明いたします。

目 次

- I. 事業概要
- II. 2025年10月期 決算概要
- III. 2026年10月期 業績予想
- IV. 中期経営方針 および 今期トピックス
- V. 株主還元

- VI. Appendix

© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

本日の決算説明会は、
「事業概要」、
「2025年10月期 決算概要」、
「2026年10月期 業績予想」、
「中期経営方針 および 今期トピックス」、
「株主還元」の順番でご説明いたします。

I. 事業概要

© NAMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

それではまず、「事業概要」からご説明いたします。

のむら産業グループは
資材・機械をワンストップで企画・販売する
米穀包装業界のトップランナー



人々のライフスタイルの変化に対応し
「包む」をキーワードに事業領域を拡大中



© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

3

当社の主な事業内容は、
米穀精米袋を中心とした包装資材の企画デザイン・販売、さらに米穀用自動計量包装機をはじめとする機械製品の企画開発・製造・販売を行う「包装関連事業」と、「包む・埋める・封をする」といった梱包に関する課題を解決する商品やサービスを提供する「物流梱包事業」を手掛け、幅広い分野で事業を進めています。

当社がこれまで成長を続けてこられた理由は、経営理念である「人に優しい新技術」、「使う人の立場に立った商品づくり」を徹底し、お取引先様のビジネスを支えながら、米穀包装業界のトップランナーとして業界を牽引してきたからだと自負しております。

今後も、人々のライフスタイルの変化に柔軟に対応しながら、「包む」をキーワードに事業領域のさらなる拡大を目指していきます。

当社グループはBtoBを中心とした2つのセグメントで構成

包装関連事業

(%:売上構成比)

約
85%

包装機械

設計・製造、
販売・アフターサービス

包装資材

デザイン・印刷・販売

物流梱包事業

約
15%

販売・
ソリューション



© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

4

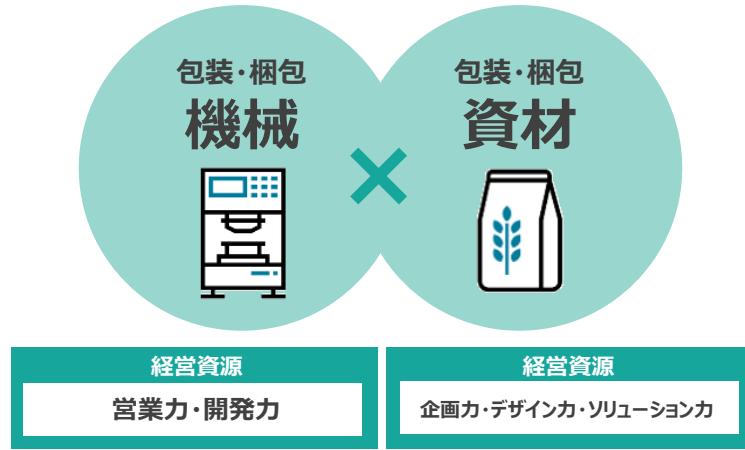
当社の事業セグメントは、大きく2つで構成されています。

ひとつは、売上高の約85%を占める「包装関連事業」、もうひとつは、売上高の約15%を占める「物流梱包事業」です。

包装関連事業は、包装資材と包装機械を両輪としてビジネスを展開し、物流梱包事業は、物流におけるパッケージに関連する資材と機械を商材として展開しております。

米穀包装資材・機械のパイオニア

包装資材と包装機械の両方を手掛けニッチ領域で事業を展開



© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

5

続きまして、事業領域についてのご説明をいたします。

当社は、「米穀包装業界」において資材、機械のパイオニアでございます。

「包装資材」と「包装機械」の両方を手掛け、「ニッチ領域」で事業を展開してまいりました。

「機械販売」と、「その機械で使用する資材販売」を組み合わせることで、安定的で持続的な「収益計上」を実現できます。これはコピー機とコピー用紙、プリンターとインクの関係と同じです。

この両面で事業を展開することは、顧客との「接触頻度」「関係性」を高め、「顧客からの要望を取り込むチャンス」を多く持つことができます。

これこそが、創成期から続く当社のビジネスモデル、「当社の強み」です。

II. 2025年10月期 決算概要

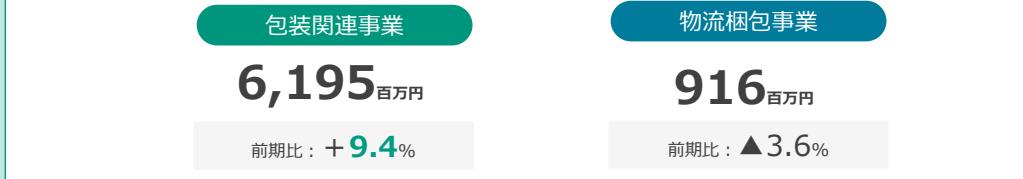
© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

続きまして、2025年10月期決算の概要をご説明いたします。
こちらについては、西澤の方からご説明いたします。

主力事業の好調な推移により、前期比で増収・大幅増益



セグメント別売上高 包装関連が堅調に増収・増益、物流梱包事業は通期予想通り減収ながらも増益



© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

7

業績サマリーについてご説明いたします。

2025年10月期の業績は、期初計画を大幅に上回り、増収増益を達成いたしました。また、9/11に発表した業績修正予想に対しても、同水準での着地となっております。

主力の包装関連事業においては、様々な影響を受けた1年となりましたが、小袋化などの消費者ニーズや政府備蓄米放出による資材需要などの対応により、資材関連の売上高は堅調に推移いたしました。

機械関連は、更新需要や鮮度保持ニーズに対応した販促強化が奏功し、売上高は好調に推移いたしました。加えて、コロナ禍で滞っていた海外向けの商談も再開し、タイ、ベトナム向けに当社製品の納品を実現しております。

物流梱包事業においては、大手通販会社が環境に配慮した低コストの梱包資材にシフトするなどの影響で、前年同期比において減収となっております。但し、この影響については当連結会計年度における物流梱包事業の計画に織り込んでおり、業績としては計画通り堅調に推移いたしました。

**包装関連事業において、顧客ニーズを着実にとらえた結果、業績は好調に推移
営業利益が前期比+49.1%増の大幅増益**

単位：百万円	24/10期決算		25/10期決算				前期比	
	実績	利益率	実績	利益率	2025/9/11開示 上方修正後 通期計画 (期初計画)	達成率	増減額	増減率
売上高	6,612	—	7,111	—	7,073 (6,700)	100.5%	+499	+7.5%
売上総利益	1,666	25.2%	1,914	26.9%	—	—	+247	+14.8%
営業利益	505	7.6%	753	10.6%	743 (544)	101.3%	+248	+49.1%
経常利益	510	7.7%	753	10.6%	744 (544)	101.2%	+242	+47.5%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	339	5.1%	508	7.1%	508 (352)	100.0%	+169	+49.8%

© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

8

こちらは連結の決算概要になります。

売上高は71億1千1百万円と、前年同期比で7.5%の増加、
当初計画に対し4億1千1百万円、修正計画に対しても3千8百万円のプラス、

営業利益は7億5千3百万円と前年同期比で49.1%の増加、
当初計画に対し2億8百万円、修正計画に対しても9百万円のプラス、

親会社株主に帰属する当期純利益は5億8百万円と前年同期比で49.8%の増加、
当初計画に対し1億5千6百万円のプラスとなり、修正計画通りの結果になりました。

米価の高止まりを背景に、鮮度保持や小袋ニーズに応える包装機械の受注・販売が好調

5kgの米価格
(スーパーでの販売価格平均)

- ・2024年1月 2,000円
- ・2025年11月 4,316円



- ・10kgなどの大袋需要が減少し、値ごろ感を狙った4kgや小袋の2kgの需要が拡大（詰め作業などの仕事量が増加）
- ・米の鮮度保持ニーズが増加



小袋化による生産性低下を背景に、
高速化と鮮度保持に対応した
当社包装機への更新（新機種への
買い替え）が増加



包装機械

売上高（百万円）

実績
予想比 +28%

2,165

1,791 2,018 (予想) 1,685

コロナ禍期間中の
パックストック対応に
より増収(25/20期 予想)
コロナ禍前の水準に
戻ることを予想

2023年10月期 2024年10月期 2025年10月期 (予想) 2025年10月期 (実績)

※農林水産省「スーパーでの販売数量・価格の推移（KSP-POSデータ全国等）（令和7年11月28日）」より作成

© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

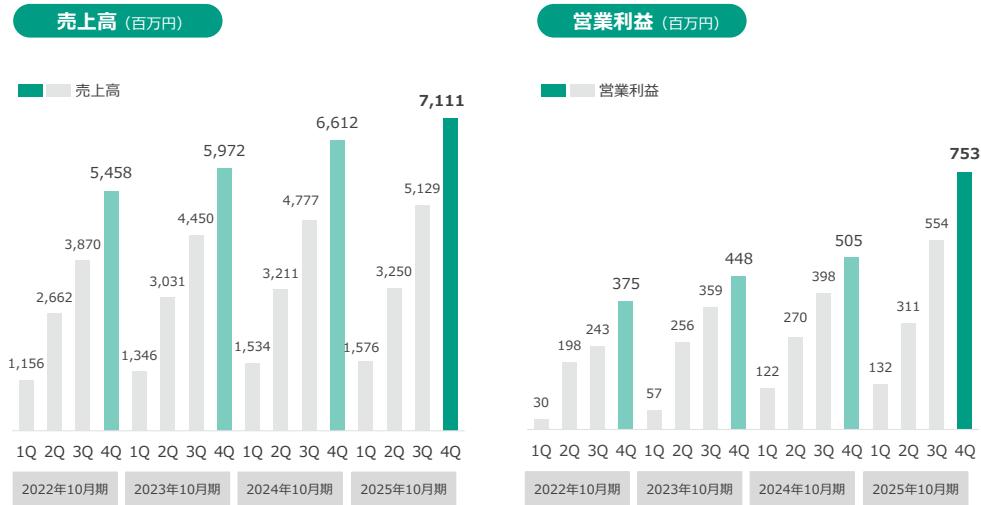
9

今期增收のポイントについてご説明いたします。

包装資材については、コメ価格の高止まりなどを背景に、10キロなど大袋需要が減少する一方で、値ごろ感を狙った4キロや小袋の2キロの需要が増加しました。コメの消費量が年々減少傾向にある中でも、資材販売は堅調に推移いたしました。

包装機械については、鮮度保持ニーズに対応した製品の販売が好調だったことに加え、小袋需要の増加により、詰め作業などの業務量が増加したことから、計量包装の高速化を実現できる当社製品への引き合いが拡大しました。さらに、働き方改革などの省力化への関心が進むなかで、資材の型替えなどが容易なチューブロール式の包装機械への切り替えが進み、包装機械販売は好調に推移いたしました。

全四半期において前年同期比で增收増益で推移



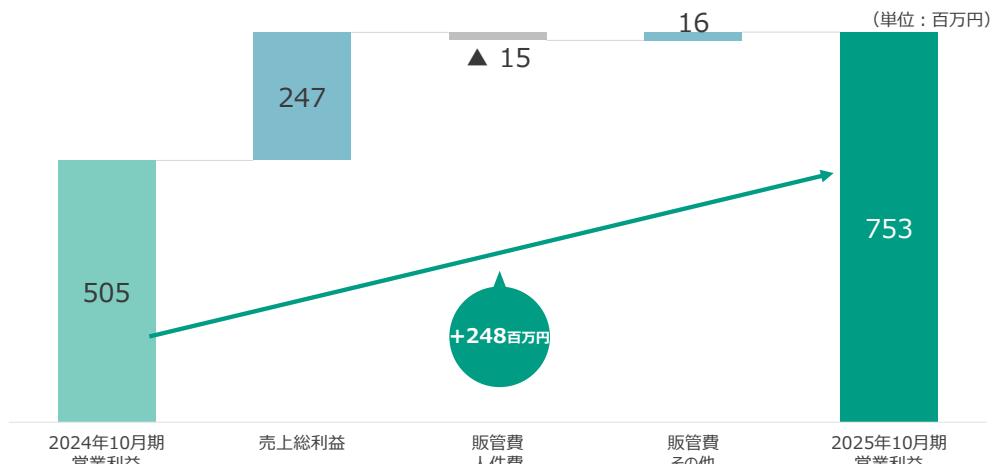
© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

10

各事業年度の売上高と営業利益の推移です。

各事業年度の四半期累計では、全ての四半期で前年累計を上回る結果となっております。

売上総利益が増加
営業利益は前年同期比で248百万円の増益



© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

11

続きまして営業利益の増減要因分析になります。

当期の営業利益は7億5千3百万円となり、大幅な増益の達成となりました。

主な要因として、消費者ニーズの変化に応じた資材供給や、鮮度保持対応製品の受注増加などによる增收効果が売上総利益の拡大につながりました。加えて、売上高の伸長に比べ、販売管理費を抑制できしたことなども寄与し、営業利益は前年同期比で2億4千8百万円の増益となりました。

包装関連事業

包装資材 | コメ価格高騰を背景に小袋化ニーズが増加。家庭用資材の販売が好調に推移

増収増益を達成

包装機械 | 鮮度保持ニーズや省力化に貢献する製品の受注増。更新需要も重なり好調に推移

物流梱包事業

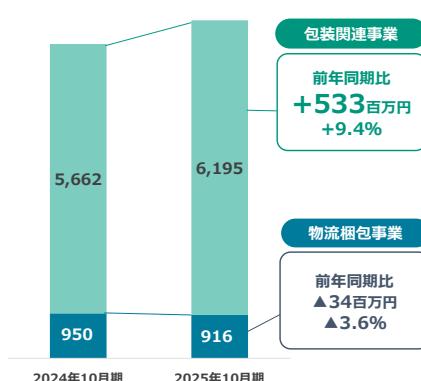
大手通販会社の低成本梱包資材への変更により一時的な減収(通期予想に織り込み済み)

増益達成

展示会を活用した新規顧客からの引合が増加中

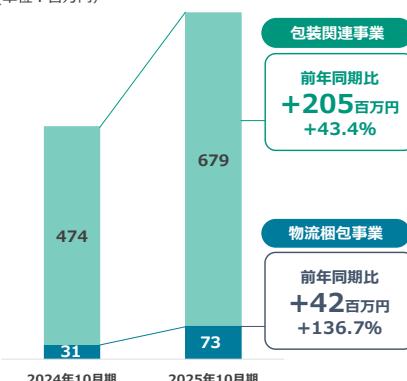
売上高

(単位：百万円)



セグメント利益

(単位：百万円)



© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

12

続きまして、セグメント別の決算概要になります。

包装関連事業では、コメ価格の高騰を背景に、10キロが減少し、5キロや2キロへの置き換えが進むなど、小袋化ニーズが増加し、家庭用包装資材の需要は堅調に推移しました。加えて、業務用包装資材も、継続するインバウンド需要の影響により、引き続き堅調な動きを見せています。

包装機械については、鮮度保持機能を備えた機械や省力化を実現する高速な機械、既存顧客による更新需要も重なり、販売は好調に推移いたしました。

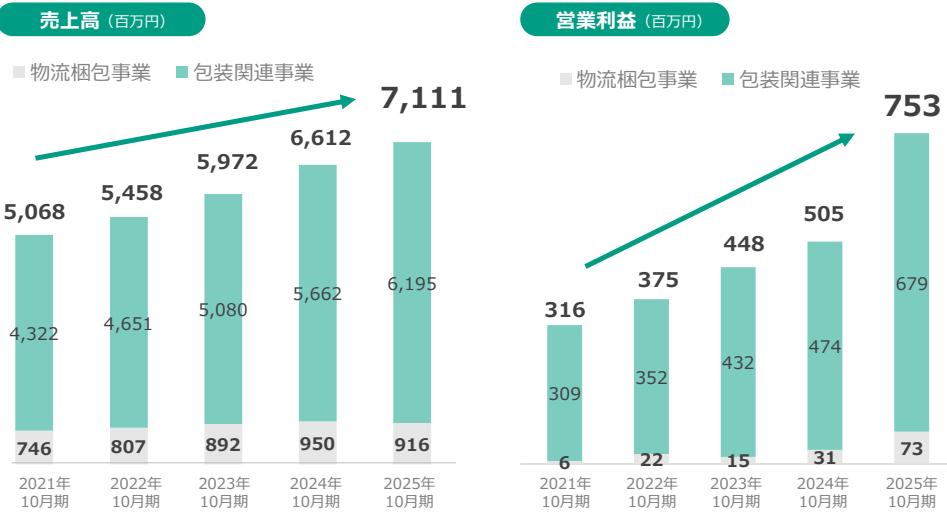
また、DXの導入を含め業務の合理化と効率化による経費抑制が進み、利益面の安定的な推移に寄与いたしました。

物流梱包事業については、働き方改革に伴う物流コストの上昇などの影響で、物流業界全体の荷動きはやや鈍化傾向にありました。しかし、ネット通販市場の安定した需要が続いたことで、物流関連の需要は底堅く推移いたしました。

業績面では、大手通販会社が環境配慮型かつ低成本の梱包資材へ移行した影響により、前年同期比では減収となりましたが、この影響は事業計画に織り込み済みであり、業績は計画通り堅調に推移いたしました。

また、減収の影響を最小限にすべく新規顧客の開拓や既存顧客への提案型営業を積極的に推進したことに加え、のれん償却の終了なども寄与し、利益面においても堅調に推移いたしました。

売上高・営業利益ともに過去最高を達成 着実に業績を拡大中



© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

13

続きまして、当社の「2021年10月期以降」の各セグメントの業績動向はご覧の通りです。

2021年10月期以降、資材高騰や燃料価格高騰、円安、令和のコメ騒動など、様々な社会環境の変化に直面しながらも、顧客ニーズを的確に捉え、のむら産業グループは安定した業績拡大を実現しております。

(単位：百万円)	24/10期	25/10期	増減額	主な増減要因
総資産	4,113	4,910	+796	主に現預金805百万円の増加、 売上債権127百万円の減少
負債	2,201	2,560	+359	主に仕入債務326百万円の増加
純資産	1,912	2,349	+437	主に親会社株主に帰属する当期純利益の計上 株主配当による利益剰余金の減少

(単位：百万円)	24/10期	25/10期	増減額	主な増減要因
営業CF	479	977	+498	税金等調整前当期純利益 仕入債務の増加 法人税等の支払
投資CF	▲62	▲45	+16	固定資産の取得
財務CF	▲209	▲126	+83	長期借入金の返済 配当金の支払
現金及び現金同等物の期末残高	1,462	2,268	+805	

© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

14

続きまして、貸借対照表とキャッシュフローはご覧の通りとなっております。
投資キャッシュフローの減少要因は、子会社における機械設備の更新など、経年劣化への対応を目的とした有形固定資産の取得による支出となります。

以上、2025年10月期決算の概要をご説明申し上げました。

III. 2026年10月期 業績予想

© NAMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

続きまして、「2026年10月期 業績予想」についてご説明いたします。

**包装関連事業を中心とした好調な業績を継続するのと同時に
重点施策の着実な実行により増収・増益を目指す**

(単位：百万円)	25/10期 (実績)	利益率	26/10期予想 (上期予想)	利益率	前期比	
					増減額	増減率
売上高	7,111	—	7,360 (3,649)	—	+248	+3.5%
売上総利益	1,914	26.9%	1,996	27.1%	+82	+4.3%
営業利益	753	10.6%	810 (463)	11.0%	+56	+7.5%
経常利益	753	10.6%	809 (462)	11.0%	+56	+7.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	508	7.1%	548 (315)	7.5%	+40	+7.9%
1株当たり当期純利益 (EPS.単位:円)	384.39	—	414.74	—	+30.35	+7.9%

© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

16

これまでと同様に好調な業績の継続を目指してまいります。

2026年10月期は、中長期での持続的な成長に寄与するための土台作りとして、既存の商品・サービス体制を再構築し、競争力と品質の向上を図るとともに、供給体制の安定化に注力し、既存事業でのオーガニックな成長を目指します。

営業利益におきましては、中長期の成長を見据えた「商品・サービスの開発力・提案力の強化」を目的とした人員強化を継続的におこなってまいりますが、業務の効率化などによる経費抑制も継続的に推進していくことで増益を計画しております。

なお、当社の今期予算は、前期末までに積み上がった受注残を上期に重点的に処理する計画としており、その結果、上期の売上高は前年同期比12.3%増を見込んでおります。

一方、下期の売上高は上期での受注対応の影響により、前年同期比3.9%減を見込んでおります。ただし、一時的な変動であり、通期の売上高は前期比3.5%増と着実な成長を維持する見込みとなっております。期別の変動は、受注のタイミングや生産計画とのバランスにより発生するものであり、計画的な対応の結果となっております。

2025年期同様、様々な環境変化に対応しつつ、年度施策を着実に実行し、通期計画を上回れるよう努めてまいります。

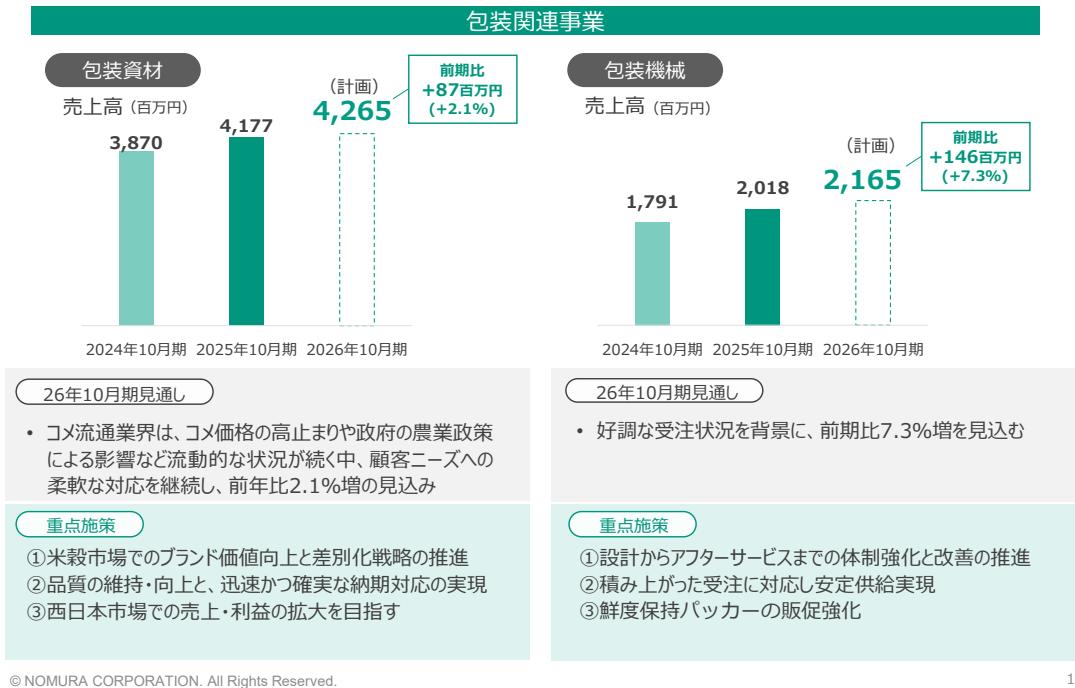
(単位:百万円)		25/10期	26/10期	前期比	
		実績	予想	増減額	増減率
売上高	包装関連事業	6,195	6,430	+234	+3.8%
	物流梱包事業	916	930	+13	+1.5%
	合計	7,111	7,360	+248	3.5%
営業利益	包装関連事業	679	720	+41	+6.1%
	物流梱包事業	73	89	+15	+20.9%
	合計	753	810	+56	+7.5%

※セグメント別の営業利益は、のれん償却費及び販管費等の配賦等を調整したセグメント利益を記載しております。

セグメント別の見通しについてご説明いたします。

包装関連事業は、売上高、前期比2億3千4百万円増の64億3千万円、セグメント利益、前期比4千1百万円増の7億2千万円の見通しです。

物流梱包事業は、売上高、前期比1千3百万円増の9億3千万円、セグメント利益、前期比1千5百万円増の8千9百万円の見通しです。



2026年の包装関連事業の事業ごとの売上は、
包装資材、42億6千5百万円、
包装機械、21億6千5百万円を計画しております。

包装資材は、

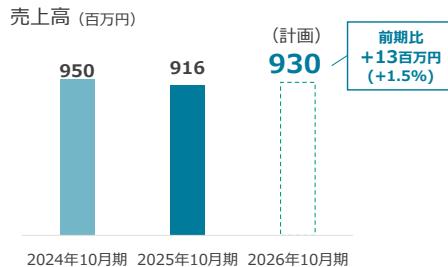
コメの流通に関しては、コメ価格の高止まりの影響をはじめ、政府の農業政策による影響など、流動的な状況ではありますが、小袋化など顧客ニーズへの柔軟な対応を継続し、前期比2.1%増の売上成長を見込んでおります。

展示会への出展や顧客ニーズに訴求した資材の提案など、積極的な営業活動に努め、コメ以外の業界、西日本市場への拡大も引き続きおこなってまいります。

包装機械は、

好調な受注状況を背景に、前期比7.6%増を見込んでおります。

小袋化、働き方改革による精米工場での省力化など、顧客ニーズの掘り下げや、令和のコメ騒動などの影響から消費者の備蓄意識が高まり、鮮度保持の関心が強くなってきたことに対応した当社の鮮度保持パッカーの販促など、継続した受注活動を行い、計画以上の達成を目指してまいります。

物流梱包事業

2024年10月期 2025年10月期 2026年10月期

26年10月期見通し

- 脱プラスチックや紙資材への関心の高まりに対応した提案力強化と、顧客ニーズに即したソリューションを積極的に展開

重点施策

- 新商材を活用した紙緩衝材の販売競争力強化
- リサイクル商材など環境配慮型商材の拡販
- 展示会などを活用した新規開拓の推進

物流梱包事業については、

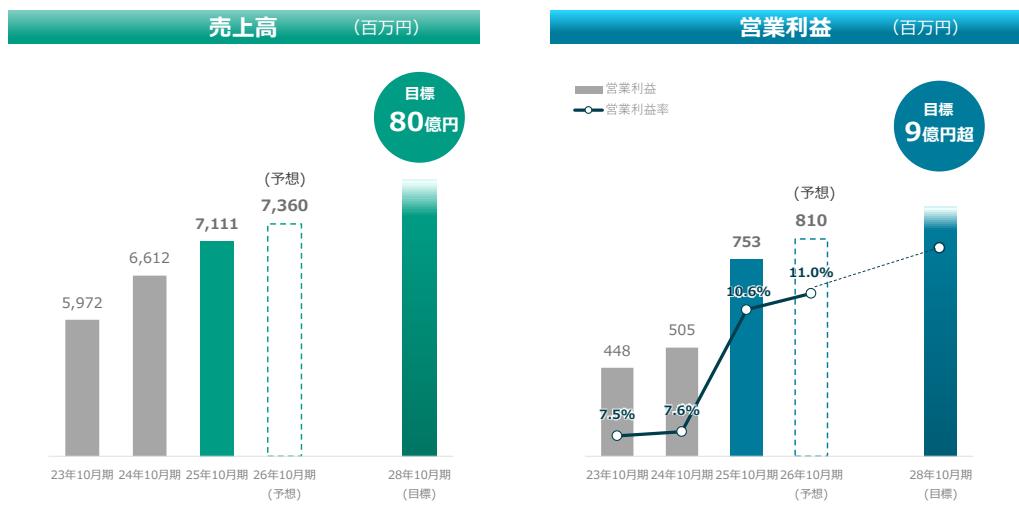
前期の一時的な減収からの回復に向け、脱プラスチックや紙資材への関心の高まりに対応した商品提案を強化するとともに、それらに関連する機械の提案を含め、顧客ニーズに即したソリューションを積極的に展開していきます。

IV. 中期経営方針 および 今期トピックス

© NAMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

続きまして、「中期経営方針 および 今期トピックス」をご説明いたします。

足元の事業環境への対応に注力し、中期経営計画の策定は見送る
**中期経営方針に変更はなく、3年後に売上高80億円、
 営業利益9億円超を目指す**



© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

21

当社では、毎期改定するローリング方式により中期経営計画を策定しておりますが、2026年10月期を初年度とする中期経営計画につきましては、策定を見送ることいたしました。理由につきましては、現在、当社主力事業の取引先であるコメ流通業界において、前期および当期にかけて、コメ不足や価格の高止まりなどにより、需給バランスが不安定な状況が続いております。

また、今後の流通についても、コメの生産量や流通経路に、不確定な要素が残り、いまだ変化の過程にあると考えられ、中期経営計画策定時に想定していた市場環境が大きく変化しております。

このような背景を踏まえ、現時点における業績見通しの開示は適切ではないと判断し、2027年10月期以降の業績見通しの公表は見送ることいたしました。

但し、中期的な経営方針は変更せず、引き続き中長期的に安定的な成長を図ってまいります。

数値目標として、3年後には、売上高は、「80億円」、営業利益は、「9億円超」を目指してまいります。

3つの拡大ポイントにおける重点施策を推進し、事業を拡大



© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

22

継続する中期経営方針については、3つの拡大ポイントにおける重点施策を推進し、既存事業の強化を基盤とし、当社の強みを活かせる分野で事業拡大を図ってまいります。

一つ目として、既存事業は、これまで「リーチできていなかったエリア」に拡大余地があり、シェアを拡大させ、さらなる事業規模の拡大を図ります。

二つ目として、米穀関連以外では、「米穀市場以外の新市場」への販売を促進し、成長を目指してまいります。

三つ目として、将来的には、「M&Aや業務提携の展開」を目指してまいります。

特に、今期においては、前期末までに積み上がった受注の処理により、「既存事業の強化」に注力し、新市場の基盤構築については2027年以降の成長を見据えた取り組みを進めて行く方針です。

既存顧客へのソリューション営業の実践

顧客の鮮度保持ニーズへ機械と資材の両面からアプローチ



精米の鮮度保持（窒素ガス充填）ニーズに対応した計量包装機

鮮度保持包装課題に訴求したチャック付き横ガゼットロール袋

© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

23

中期経営方針に基づいた主な進捗状況をご説明いたします。

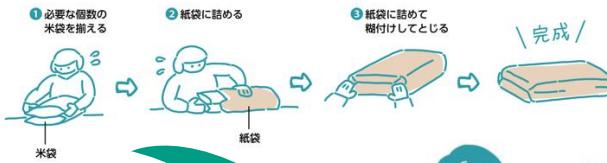
包装関連事業については、鮮度保持包装や環境配慮型資材など、様々な顧客ニーズに対応した商材を活かし、既存顧客の深耕や新規顧客の獲得に注力しております。

また、精米の鮮度保持を目的とする窒素ガス充填機能を搭載した機械と、鮮度保持包装の課題に訴求したチャック付きの袋を組み合わせたソリューション営業を実践し、収益に結び付けることができました。

また、先ほども申し上げた通り、小袋化ニーズが高まることで、包装作業量は増加傾向にあります。そのため、同一の作業時間で効率的に業務を遂行には、包装工程の高速化が不可欠です。こうした市場環境を背景に、高速化が実現できる当社機械への需要が着実に拡大しているものと考えられます。

まとめ包装の合理化、省力化を実現できる機械の販促

before



複数のコメ袋をまとめることができる、二次包装機の引き合いが好調。省力化・省スペース化を実現できる製品の提案を進め、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを推進。

after



重労働の作業もボタンひとつで全て自動化！



© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

24

また、継続するインバウンド需要を背景に、業務用資材も堅調に推移しております。さらに働き方改革や、資材の小袋化など市場環境の変化により、従来手作業で行っていた二次包装を自動化し、効率化を図る動きも加速しております。

当社のオートサッカーは、例えばコメが詰められた2キロの袋を10個、自動で紙袋に詰めて20キロ1個とすることで、運搬時の取り扱いを容易にするほか、荷崩れ・袋の破損・汚れを防ぎ、効率化、省力化、ロスの削減などが可能となり、精米工場での人手不足、働き方改革による労働時間の短縮に対応することができます。

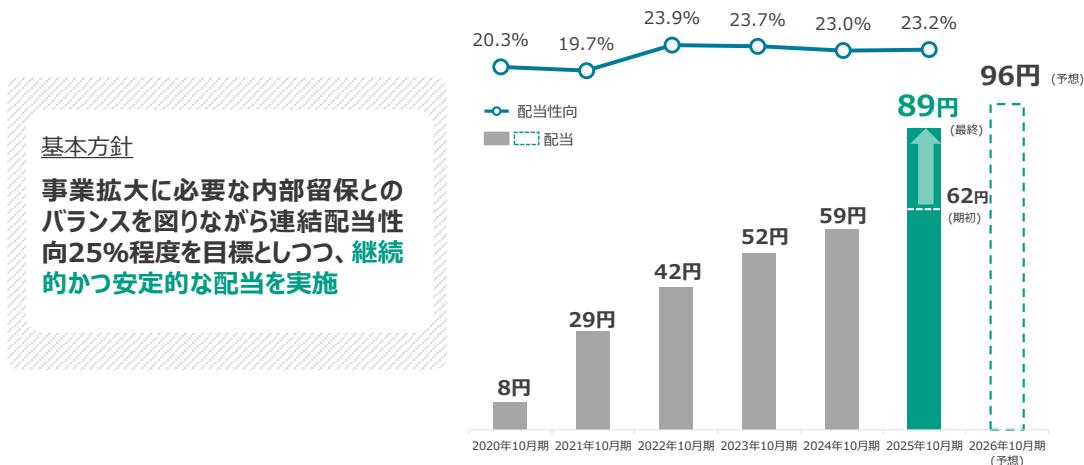
引き続き、当社の様々な製商品を組み合わせ、お客様の困りごとに訴求できる提案力の強化に努め、持続的な成長につなげてまいります。

V. 株主還元

© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

続きまして、「株主還元」についてご説明いたします。

25/10期は、前期比で**30円増配**、
26/10期は前期比で**7円増配し96円の予定**



※2020年8月12日付で普通株式1株につき25株の割合で株式分割を行っており、1株当たりの年間配当金につきましては当該株式分割後の配当額を記載しております。

© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

26

株主の方々への利益配分の重要性は認識しており、今後の成長投資に向けた、内部留保を確保するとともに、配当についても、連結の配当性向25%程度を目標としつつ、継続的かつ安定的な利益配分を実施していく方針です。

2025年10月期の年間配当金は、9月11日に発表いたしました配当予想の修正のとおり、1株につき89円とさせていただきます。

2026年10月期の年間配当金は、さらに増配をし、1株につき96円を予想しております。



2025年10月期 決算説明資料

のむら産業株式会社 証券コード 7131

以上、「事業概要」、
「2025年10月期 決算概要」、
「2026年10月期 業績予想」、
「中期経営方針 および 今期トピックス」、
「株主還元」についてご説明申し上げました。

VI. Appendix

© NAMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

会社名	のむら産業株式会社
設立	1965年（昭和40年）11月
会社所在地	東京都東久留米市前沢5丁目32番23号
代表者	代表取締役社長 清川 悅男
資本金	80,000,000円
決算期	10月
発行済株式数	1,391,575株（自社株含む）
従業員数	112名（平均臨時雇用人員含む） ※25/10/31時点（連結）
連結子会社	パックウェル株式会社 山葉印刷株式会社 BJT JAPAN合同会社
監査法人	EY新日本有限責任監査法人
事業内容	＜包装資材部門＞ 米穀精米袋を中心とした食品及びその他の包装資材の企画・デザイン及び販売 ＜包装機械部門＞ 米穀用自動計量包装機を中心とした計量包装機械の企画開発及び製造販売

経営理念

人に優しい新技術をモットーに、
常に使う人の身になっての
商品づくりに努め、
お取引先の皆様とのビジネスを通じて
社会に貢献していきます。



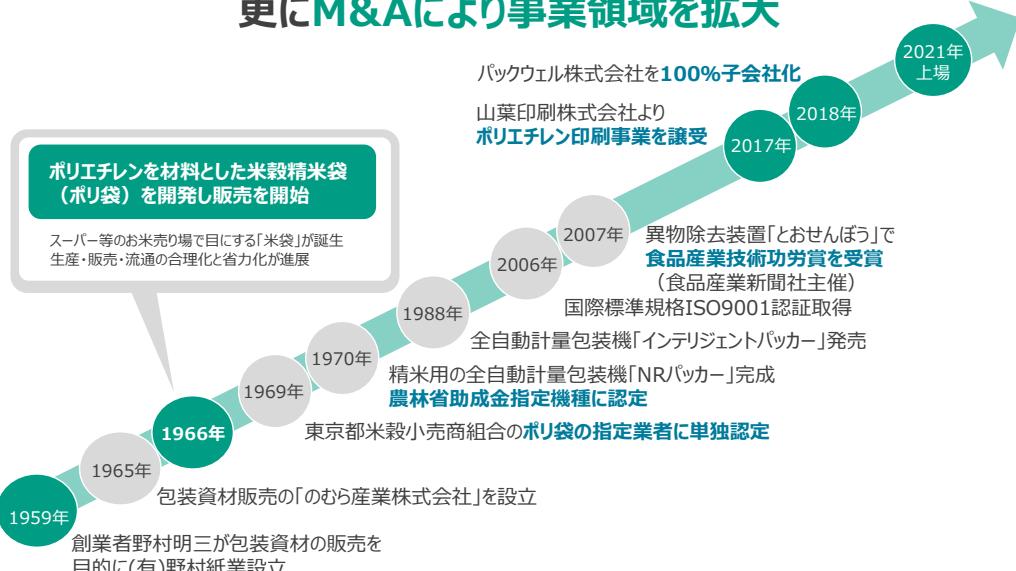
© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

29

当社は、1965年、昭和40年に設立され、現在61年目を迎えております。
ニッチな業界ではありながら、「技術、商品、サービス」を磨き、「お取引先の皆様」からの信頼を築き、成長を続けてまいりました。

従業員数は、約110名、連結子会社3社にてのむら産業グループを形成しております。
事業内容は、「米穀精米袋を中心とした包装資材」の企画デザイン・販売と、「米穀用自動計量包装機を中心とした機械製品」の企画開発・製造販売からなる「包装関連事業」と、「包む・埋める・封」をするといった、梱包における問題を解決するための商品・サービスを提供する、「物流梱包事業」により事業を展開しております。

設立半世紀を超えた米穀包装資材・機械のパイオニア 更にM&Aにより事業領域を拡大



© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

30

当社の沿革となります。

1959年に「野村明三」が包装資材の販売を目的に、「野村紙業」を立ち上げ、「創業」いたしました。

その後、1965年に「のむら産業株式会社」を設立し、翌年、新しく開発したポリエチレンを材料とした米穀精米袋の販売を開始いたしました。現在、スーパー等で当たり前のように目にする「米袋」は当社から生まれました。

1970年には、新しく開発した精米用の全自動計量包装機の販売を開始し、米袋と合わせ精米の生産・流通・販売の合理化に大きく寄与しました。

2017年に山葉印刷株式会社よりポリエチレン印刷事業を譲り受け、2018年にパックウェル株式会社を100%子会社化し、当社自身の「オーガニックな成長」とM&Aにより、米穀包装資材・機械のパイオニアとして企業規模を拡大してまいりました。

当社グループはBtoBを中心とした2つのセグメントで構成

包装関連事業

(%: 売上構成比)

約
85%

包装機械

設計・製造、
販売・アフターサービス

包装資材

デザイン・印刷・販売

物流梱包事業

約
15%販売・
ソリューション

© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

31

続きまして事業概要をご説明いたします。

当社の事業セグメントは、大きく2つで構成されています。

ひとつは、売上高の約85%を占める「包装関連事業」、
もうひとつは、売上高の約15%を占める「物流梱包事業」です。

包装関連事業は、包装資材と包装機械を両輪としてビジネスを展開し、
物流梱包事業は、物流における、パッケージに関連する資材と機械を商材として展開し
ております。

米袋を中心とした食品及びその他の包装資材の企画・デザイン及び販売



© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

32

包装関連事業の概要について、ご説明いたします。
包装資材については、米袋を中心とした食品、
およびその他の包装資材の企画・デザイン及び販売をおこなっております。
まず調査、マーケティングを行い、市場調査、データ分析により、
時事に合ったトレンドを発掘いたします。
続いてお客様の要望に合った最適のプランとデザインをご提供し、納品いたします。

米穀用自動計量包装機を中心とした計量包装機械の企画開発及び製造販売

製品	パーセルⅡ HP15D	インテリジェントパッカー ネオス DSR-110	スーパーインテリジェント パッカー SIP-110RⅡ	ネクサス NX-180R
				
計量機と包装機が一体化				
性能	±2gの計量精度と 5袋～6袋/分の能力	1基の計量機で 10袋/分 (5kg時) の包装能力	計量機2連搭載	3基の計量機で高速化を実現
操作性	マイコン自動制御で高精度な計量 と計量回数機能搭載	サイドグリップ方式で 確実に袋を保持	各機構部をユニット化し清掃・調整・メンテナンスが容易	
その他	小スペースで設置可能な コンパクトサイズ	省エネ性能で、エアー消費量、 電力消費量を削減	バーコードの読み込むだけでフィルムサイズ、計量値、 シール設定、印字位置等を自動型替え可能	

包装機械についてです。

米穀用自動計量包装機を中心とした、
計量包装機械の企画開発及び製造販売をおこなっております。

顧客ニーズに適した様々な包装機械・オプションなども企画・開発

異物除去機	集積包装機	
		
糖玉取機（とおせんぱう）	フレキシブルミニサッカー MS-5000H1・H2	フレキシブルオートサッカー FAS-2010BP
給袋式自動計量包装機	チューブロール袋用包装機	
		
NRP-6	ジャスティーン NKC-01A	ジャスティーン NKR-01A
		PLN-400

顧客ニーズに適した様々な包装機械、オプションなども企画・開発をしております。

物流におけるパッケージ現場の問題解決策の提案や海外の優れた製品・資材を輸入・販売

包む

- 大切なモノを優しく包む
- エアーパッケージ材システム
 - 紙緩衝材システム
 - 表面保護フィルム

ワレモノ専用
包装材

ワインボトルや薬品ボトル等、守りたい商品の形状にフィット

エアーパッケージ材
システム

フィルムに空気（エア）を注入して袋状の緩衝材を高速で製造するシステム

埋める

- 大切なモノの隙間を埋める
- エアーハニカル材システム
 - 紙緩衝材システム

エアーハニカル
材システム

簡単操作でフィルムを縦置きにすることで最小のスペースを実現（環境にも優しいバイオフィルム）

紙緩衝材
システム

脱プロの風潮に適した緩衝性能の高い紙パットタイプの緩衝材システム

封をする

- 大切なモノを運ぶため封をする
- 封かん・製函機
 - ガムテープ縫出し機

封かん・製函機



段ボールケースの上下面をテープ貼りする自動封かん機
マニュアル梱包の現場におけるガムテープ封かん機
作業効率システム

© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

35

物流梱包事業の概要についてご説明いたします。

物流におけるパッケージ現場の問題解決策の提案や海外の優れた製品・資材を輸入販売しております。

物流における「包む」、「埋める」、「封をする」といった3つの目的に沿った様々な製品を取り扱っております。

- 本資料は、会社情報、経営計画、連結業績等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

のむら産業株式会社 管理部

Web : <https://www.nomurasangyo.co.jp/ir/>